

多職種連携教育 Letter

工学部生×国際地域学部生 敦賀でまち作りを考える

本学では、多職種連携教育を「職種の違いを超えて包括的に課題に対処できる資質・能力を培う教育」と定義、推進しています。この取り組みとして、6月7日（金）、工学部「都市設計演習第2」（前期／3、4年生／指導教員；野嶋慎二、菊地吉信）履修学生、国際地域学部「課題探究プロジェクトⅢA」のうち嶺南を活動拠点とする学生（通年／3年生／指導教員；田中志敬、江川誠一、嘉瀬井恵子）が合同で、港敦賀のまちづくりを学びました。学生が学部の違いを越えつつも、現場でともに学びながら考えていくことをねらいとして、嶺南地域ではじめて、敦賀で実習とワークを行いました。

フィールドワークを前に、敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」において、敦賀市まちづくり観光部の西村勇人氏によるシェアサイクル導入の経緯についての説明を受けました。その後、学生は、シェアサイクルでまちが持つ地域資源や、それを活かした魅力、ポテンシャルを主体的に発見することを目的に、敦賀港・博物館通り周辺、商店街ほか、市内5か所を2時間かけて調査しました。



シェアサイクルで現地調査



敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」でワークショップ

続くワークショップでは、両学部生が混合のチームに分かれて、持続可能な敦賀のまちをデザインしました。フィールドワークで気付いたアイデアや描写をポストイットに記載して、敦賀市の地図に添付しました。その後、全体で意見を共有しました。

大矢花菜さん（工学部3年）は「短い時間のワークでしたが、国際地域学部生は工学部生とは違う視点からものごとを見ていることに気づきました」といいます。また、下條未遥さん（国際地域学部3年）は「工学部生は視覚だけでなく“匂い”といった嗅覚によるモノの見方をしていました。また、“単調”“統一感”といった言葉の意味を大切にしていることが印象的でした」と感想を寄せています。

編集後記

今回の活動は、通学している文京キャンパス（福井市）を離れ、他学部の学生同士が敦賀の文化や歴史に触れながら視野を広げることを目的としていることから、あえて意見交流の場として、敦賀市知育・啓発施設ちえなみきにて実施しました。午前中の授業を受講した後、電車で1時間以上かけて、今春、新たに新幹線駅となった敦賀に移動して活動することは、学生にとって「学びの場の拡充」という意味だけではなく、大きな意義を持つと感じます。また、普段、学科の専門性に応じた授業を受講している学生も、学年や学部を越えた学びの中で、刺激を受けつつ、専門性を多角的に深くアプローチをしていくきっかけとなったようです。7月5日は、ちえなみきで教育学部生×国際地域学部生によるセミナーを実施します。

【編集・発行】嘉瀬井恵子（福井大学地域創生推進本部附属嶺南地域共創センター）

【問合せ先】福井県敦賀市鉄輪町1-3-33 0770-48-0964 kasei@u-fukui.ac.jp

本活動は、福井大学地域創生推進本部附属嶺南地域共創センターの福井県嶺南地域における課題解決事業・プロジェクト（研究代表：嘉瀬井恵子）に対する支援を受けて実施している